

令和4年度社会福祉法人三環舎事業報告書

1 利用定員

	あしたば園	夢来夢来	夢来夢来
就労移行支援	0	7	
就労継続支援B型	16	20	
自立訓練	6		
生活介護	18		
就労定着支援			15
計	40	27	15

2 職員数 あしたば園 18名（常勤換算 15人）

夢来夢来 16名（常勤換算 11.5人）

あさひが丘 5名（常勤換算 3.8人）

あまみ就業・生活支援センター 4名

チャレンジドサポート奄美 5名

育児休暇 2名 計 50名（R5.3.31現在）

3 主な実績等

① 通所者数

	あしたば園				夢来夢来				あさひが丘	
	就労B	自立訓練	生活介護	小計	就労移行	就労B	小計	就労定着	入所	短期入所
定員	16	6	18	40	7	20	26	15	7	1
4月	16.9	2.9	14.6	34.4	3.9	12.5	16.4	9.0		
5月	18.9	3.0	13.9	35.8	4.2	13.6	17.8	9.0		
6月	19.2	2.9	15.3	37.4	3.8	12.8	16.6	8.0		
7月	19.1	2.4	15.2	36.7	2.9	12.5	15.4	8.0		
8月	17.3	1.9	13.4	32.6	2.7	12.6	15.3	8.0		
9月	18.8	2.7	14.2	35.7	3.5	13.1	16.6	8.0		
10月	17.9	2.6	15.6	36.1	3.5	12.6	16.1	10.0		
11月	18.0	2.8	15.0	35.8	3.8	13.1	16.9	10.0		
12月	16.9	2.7	15.2	34.8	3.5	12.8	16.3	11.0	6.0	
1月	17.3	2.7	15.8	35.8	3.6	12.6	16.2	11.0	6.0	
2月	17.4	2.8	15.9	36.1	3.6	12.4	16.0	11.0	6.0	
3月	20.1	2.9	16.9	39.9	3.8	12.5	16.3	11.0	6.0	
月平均	18.2	2.7	15.1	35.9	3.6	12.8	16.3	9.5	6.0	

② 工賃（4～3月） 総額 18,267,803円

	あしたば園			夢来夢来	
	就労B	自立訓練	生活介護	就労移行	就労B
総額	7,822,783	706,700	1,289,210	1,218,310	7,230,800
平均利用者数	18.2	2.7	15.1	3.6	12.8
平均月額	31,693	22,650	7,162	29,007	33,850

4 活動の内容と成果

令和4年度も新型コロナウイルス感染症拡大の為、活動が制限された。行事など利用者と職員のみで行うことが多く、家族会や地域との交流なども行えなかった。一方で、オンラインでの研修がすすみ、全国規模の研修にも積極的に参加することが出来た。

主な内容と成果は、次のとおり

- ①グループホーム「あさひが丘」を開設した（12月1日）入所者7名、ショートステイ1名
また、地域生活支援拠点（島じゅうり工房、肢体不自由グループホーム等）建設のため、浦上町に400坪の土地を購入した。
- ②コロナ禍が続き、移動販売やイートインが大きく制限され、店舗イベントも開催できなかったが、昨年度の焼きたてパンの売り上げは前年比の108%、喫茶部門は前年比104%になった。島料理レトルト部門は前年比116%となり、奄美市などの販売会は少なかったが、ふるさと納税の返礼品としての注文が多かった。その結果、就労継続支援B型の平均工賃があしたば園、夢来夢来とも目標とする3万円を達成した。また、知的障害者福祉協会の月刊誌「サポート」令和4年7月号に「売れ筋のヒント2022—コロナ禍での挑戦—島じゅうりまごころ便（島料理レトルト食品）の取り組み」として掲載された。
- ③商品パンフレットの作成；白澤氏に依頼して行った。（奄美市加工品販路拡大支援実証事業）
- ④利用者さん創作のマグカップ、カレー皿を新商品として作成した。
- ⑤スマレジ、自動釣銭機の導入により、店舗業務の効率化を図り、利用者もレジ業務に参加できるようになった。
- ⑥令和4年度は、6名（あしたば園1名、夢来夢来5名）が就職して巣立っていった。また就労定着支援が一昨年7月より開始され、就職した方12名の定着支援に取り組んだ。
- ⑦職員と利用者のみで、レクリエーションも縮小して行った。また月1回「あしたば園だより」を発行してご家族にも活動の様子が見える化するようにした。
- ⑧生活支援アプリの取り組みと余暇活動支援は、少し慣れてきて参加者が増加した。また辻井正次先生を迎え、新しくアバターアプリにも取り組んだ。また、奄美ライオンズクラブと協力して、スペシャルオリンピックスの活動に取り組むなど余暇活動の充実を図った。
- ⑨相談支援事業所チャレンジドサポート奄美では、心理士相談（69件）に学校からの申し込みが多く、もぐもぐ外来では保健師や児童関係事業所からの申し込みが多い。また保育所などでの運動遊び支援も定着している。またペアレントプログラムを大和村（父親4名）と奄美市（小学生の親10名）を行政からの委託事業として行った。また辻井正次先生を講師に支援者のアドバンストワークショップを行い、資格認定を行うことができた。
- ⑩安心・安全の送迎体制のため、運転適性検査、運転前のアルコール検知を実施した。
- ⑪給与体系の見直しと職員の処遇改善、福利厚生の実施（資格取得のための補助、表彰制度など）を行った。また、パート職員の時給の改善を行った。
- ⑫利用者へのアンケート、職員の要望・提言調査を行った。

【あしたば園】

《製造班》

製造班は、「ラスク及び菓子製造」、「島じゅうり」の二班で活動している。

ラスク及び菓子製造班は、従来商品に加え、今年度も、**ラスク**、クッキーシューとチーズケーキ、シフォンケーキが好評で安定的に売り上げている。**チーズケーキに関しては、幼稚園や個人注文が増えた。バレンタインやホワイトデーには、利用者さんが描いた、マグカップを制作し、ラスクを添えて販売した所、とても好評だった。**

島じゅうり（加工場）では、昨年に引き続き観光客が激減して空港やお土産店での売り上げが半減したにもかかわらず、**鶏飯や奄美カレーが安定的に売れ**、売り上げが前年比116%となり、工賃向上に大きく貢献した。また今年度より幼稚園の給食パン製造・配達を始め、パン、ラスク・ケーキで854万円（前年度比+161万円）島じゅうり1,775万円（+253万円）

《委託作業》

あしたば園の畑では、季節に合わせた野菜を植えて、つわぶき、ジャガイモ、大根などを収穫した。また和光園の草刈り作業を受託し、その他官公庁の剪定作業や墓掃除へも取り組んだ。名刺印刷にも取り組み、官公庁よりの受注を行っている。

《生活介護》

日々の活動計画に基づいて、障害の程度に合わせた軽作業を行っている。コロナの影響で楽しみにしている遠出販売や喫茶レクはほとんど行けなかった。

スヌーズレンの活動も継続。スヌーズレンルームで一時的ないらだち、不安感の解消など利用者のリラクゼーションにも取り組んでいる。

今年度は、レクリエーションやボッチャに力を入れて取り組み、楽しんでいる。また、生活介護班の生産活動として、つわぶきの皮むき、箱折り、シール貼り、袋作り等を行い、繰り返し取り組む事によって働くことにも力をつけている。売上アップの為、手作り石鹸作りや七夕飾りの商品作りもおこなった。

【夢来夢来】

《製造班》

パン製造班は、徐々に力をつけ、多数の新商品製造に尽力し、夢来夢来は多数のお客様が来店する人気店となっている。店頭販売1,972万円（+11万円）。むかいクリニックやなぎさ園、幼稚園などの注文も受けており納品分が452万円（+45万円）と多くなった。新たに郵便局の無人販売等にも注力している。

《販売班》

店舗では元気よく対応し、お客様に親切なお店として好評で、1日平均150名のお客様に対応している。また移動販売班は、市役所、老人施設他たくさんの方所で移動販売を行っている。感染レベル上昇のため、一時販売ができないこともあったが、感染症対策と、移動販売先のお客様の配慮で、引き続き販売を行うことができています。

スマレジ、自動釣銭機の導入により、店舗業務の効率化を図り、利用者もレジ業務に参加できるようになった。

《喫茶・ランチ班》

コロナ禍の影響で、喫茶を休業することが多かったが、弁当やテイクアウトで対応した。イートインは141万円（△68万円）テイクアウト1,198万円（+101万円）であった。

原材料が値上げとなっており、価格の見直しを行った。

《清掃班》

サービス付き高齢者住宅「ゆとりあん」の清掃作業、退所時清掃、ワックスがけを通して、作業スキルを身に付け一般就労への力をつけている。

- ・幸栄パチンコ店ワックスがけ（月1回）、ワックス剥離作業（年1回）
- ・むかいクリニックワックスがけ
- ・夢来夢来、あしたば園ワックスがけ

《奄美市食の自立支援事業》

奄美市が行う訪問給食サービスの委託を受け在宅の高齢者に対して、温かい食事を配食することにより、栄養の改善や、安否の確認等を行っている。

《厨房班》

むかいクリニックの厨房で食器洗浄、仕込み、盛り付けなどを行い、スキルアップに役立っている。

《就労支援》

就職への意欲は高く、就職者5名 実習延べ8名であったが、それぞれ力をつけているので来年度に期待したい。

《その他の取り組み》

新たな余暇ニーズへの取り組みとして、班を分けながらの活動を行った。感染症レベルが高く、開催できないこともあったが、オンラインなど利用して、できる限り開催することに注力した

【あまみ障害者就業・生活支援センター】

《支援実施状況》（令和5年3月31日現在）

□登録状況（性別）

区分	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計（人）
男性	27	62	46	19	154
女性	12	36	31	7	86
合計	39	98	77	26	240

□登録状況（現状別）

区分	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計（人）
在職中	26	62	24	12	124
求職中	10	31	44	12	97
その他	3	5	9	2	19
合計	39	98	77	26	240

□実習・就職件数

区分	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計（件）
職場実習	5	7	14	6	32
就職	3	10	6	1	20

登録者における男女比は、男性が64%、女性が36%で、障害別では、概ね身体障害者16%、知的障害者41%、精神障害者32%、その他11%となっている。

また、登録者における在職者の割合は、約52%である。

実習は目標の25件を超えたが、就職は目標の22件を下回った。

主な実習先や就職先としては、例年に比べ福祉施設等だけでなく、美容室や葬儀場、ホテルなど幅広い業種となった。作業内容は調理補助や清掃が多かった。公的機関での就職が4件あった。

《障害者就業開拓推進員の配置》

県雇用労政課の非常勤職員として、障害者就業開拓推進者が1名駐在し、求人開拓や雇用関係情報の収集などの業務に従事して頂いた。（平成26年度から継続）

《離島訪問等》

コロナ禍の影響もあったが、概ね当初予定回数離島訪問することができた。それにより関係機関との情報共有や登録相談会、事業所開拓等を行うことで実習や就職支援、定着支援、生活支援に繋がった。また、本島内6地区でも登録相談会を開催した。

【離島における訪問回数】

（喜界島）7回 （徳之島）3回 （沖永良部島）3回 （与論島）3回

《在職者交流会》

在職者を対象にした交流会を3回実施し、就労面や対人関係等の悩みなどを共有した。課題の解決や就労意欲のモチベーションの維持を図ることで定着につながっている。

- ① 6/25 「働く女性の身だしなみ（場に応じた化粧）を学ぶ」
（あしたば園 川元しおり氏） 参加者6名
- ② 12/17 「今年1年間の振り返りと来年の抱負について」
（センター職員対応） 参加者11名 「奄美大島世界遺産センター見学」
- ③ 3/18 「ストレスを溜めない体づくりを学ぶ」
（すうトレ（株）池澄江氏） 参加者4名

《ピアサポート交流会》

センターの概要説明を行い、その後ピアサポーターによる体験談、参加者との意見交換を行った。

日時：2月27日（火）13：30- 場所：奄美市社会福祉センター会議室

講師：特定非営利活動法人健康ど宝 里健一氏

参加者：就労継続支援A型事業所等に通所しているセンター登録者等 9名

《障害者支援担当者交流会》

企業において障害者支援を担当する支援者を対象に、当センターの活動状況を説明し、その後講師による講和、質疑応答を行った。

日時：12月27日（火）13：30～ 場所：オンライン開催

講師：国分公共職業安定所 精神障害者雇用トータルサポーター 岡本眞理子氏

テーマ：「精神障害、発達障害のある同僚とともに働く上でのポイントについて」

参加者：7社7名

《関係機関との連携》

地域で開催される各会議にオンライン等で参加し、センターの周知を図り、就労支援の為のネットワーク作りを強化することで、連携体制を築いた。

○奄美地区地域自立支援協議会

(全体会、運営委員会、定例会、就労部会、精神部会)

○大島地区就労ネットワーク会議(1回 オンライン開催)

○鹿児島県障害者就業・生活支援センター連絡会(3回 オンライン開催)

○鹿児島県障害者就業・生活支援センター業務担当者会議(5回 オンライン開催)

○大島養護学校(登録相談会、出張講座等)

《会議開催》

○令和4年度 障害者就業・生活支援センター連絡調整会議

障害福祉サービス事業所や相談事業所、行政機関、教育機関、ハローワークの担当者等に対し、センターの活動状況を説明した。

また、鹿児島障害者職業センターなど専門機関に活動内容などの説明をお願いした。

今回は、コロナ感染防止の観点からオンラインで開催した。

日時：1月25日(水) 13:15～14:15

場所：オンライン開催

参加：37機関46名

※第1回大島地区就労ネットワーク会議と共催。

【指定特定相談支援事業所 チャレンジドサポート奄美】

管理者及び主任相談支援専門員1名 相談支援専門員4名
(現任研修修了者3名)

1 計画相談実績

月	利用計画作成(請求分)	モニタリング(請求分)
4月	5	108
5月	79	70
6月	31	53
7月	25	111
8月	27	75
9月	17	49
10月	11	100
11月	23	74
12月	17	58
1月	16	102
2月	21	72
3月	8	58
計	280 件	930 件

2 障害児等療育支援事業実績

① 在宅支援訪問療育支援事業(160件)

・小児神経専門外来、発達療育相談

- ・ 県立大島病院 2 回、奄美市 2 回
- ・ 心理士相談 (40 回)
 - 鹿兒島大学心身医療科 公認心理士 川元氏
 - 奄美病院 公認心理士 新田氏
 - 鹿兒島純心大学准教授 公認心理士 中島氏
 - 臨床心理士・公認心理士 西留氏
- ・ もぐもぐ相談 (鹿兒島大学小児歯科 佐藤医師) 2 回
- ② 施設支援一般指導事業 (66 件)

保育所、幼稚園、学校、大島養護学校などからの申し込みを受け、専門スタッフを派遣して、療育に関する技術向上に向けての助言や支援を行う。

 - ・ 発達障害地域支援専門員 大山氏・向井氏
 - ・ 療育指導相談員 當島氏
 - ・ 聖隷福祉事業団 保育士 座安かおり氏
 - ・ にこびあ 言語聴覚士 法氏
 - ・ 鹿兒島大学小児歯科 佐藤医師、橋口医師
 - ・ そらまめキッズ 平原氏
 - ・ 社会医療法人天陽会中央病院 言語聴覚士 松永氏
 - ・ 中京大学現代社会学部教授 辻井氏
- ③ 外来相談支援、一般相談 (0 件)

障害児、障害者に対して随時個別相談に応じる。
- ④ 障害者親の会
 - ・ 就学児親の会 (1 回)
 - ・ ダウン症親の会 (1 回)
- ⑤ペアレントプログラムの実践
 - ・ 大和村父親対象 6 回
 - ・ 奄美市は保護者対象 6 回
 - ・ ペアレントプログラム資格認定講習
- ⑥ 鹿兒島県子ども療育センターのコーディネーター会議への参加 (6 回)

(リモート 2 回、現地 4 回)
- 3 会議への参加
 - 奄美地区地域自立支援協議会 相談支援部会 (毎月) 運営委員会 子ども部会

【グループホーム「あさひが丘」(介護サービス包括型共同生活援助)】

サービス管理者 1 名、生活支援員 1 名、世話人 4 名、 宿直 3 名 (内職員兼務 2 名)
 入居定員 7 人 ショートステイ 1 人

サービス内容

☆主として夜間において、共同生活を営むべき住居における相談、入浴、排せつ、又は食事の介護その他の日常生活上の援助を実施

☆利用者の就労先又は日中活動サービス等との連絡調整や余暇活動等の社会生活上の援助を実施

《令和4年度三環舎スローガン》

伝え方ひとつで変わるメッセージ

○情報量をシンプルに

端的に(必要ない部分は省いて、短く話す)

一つずつ

結論から

先に用件を

一回で全てを伝えず、分けよう

○相手の言葉に耳を傾けよう

共感しましょう(相手の立場になって考える)

最後まで聞きましょう(話す量 7:3 を理想とする、相手の言葉を遮らない)

自分の考えと、相手の言ったことを分けましょう

話しやすくなるようサポートしましょう(誘導が決めつけにならないよう注意)

一旦肯定的に受け止めましょう(指導、否定、評価は控える)

決めつけず、掘り下げましょう